

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高須 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

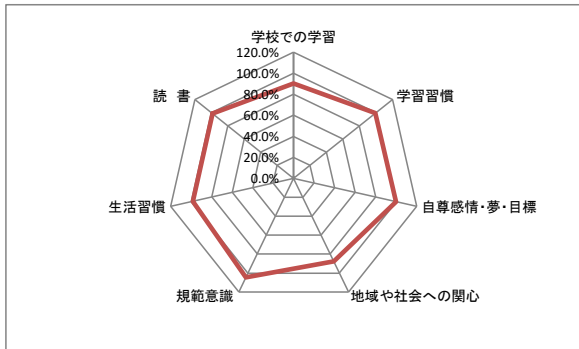
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○平均正答率は全国を下回っており、特に「書くこと」において課題が見られる。記述式の問題において無回答率が高く、問題に向き合おうとする姿勢を育てていく必要がある。 ○言語についての知識・理解・技能では、全国の平均正答率と同程度である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	◎「対象」「関心」の漢字を正しく書くことができている。 ◎インタビューにおいて、目的に応じて質問を工夫することができる。	下回っている
	努力が必要な問題	●情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方を工夫したり、目的に応じて自分の考えを明確にして書いたりする問題では、特に正答率が低い。	

算数	全体的な傾向や特徴など	○平均正答率は全国を下回っており、その差は国語よりも大きい。 ○「量と測定」領域の正答率が特に低く、問題を具体的な場面としてとらえきれていない。一方、「数と計算」領域は比較的正答率が高く、計算の仕方は理解できている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	◎「 $1800 \div 6$ 」が何m分の代金を求める式であるかを理解している。 ◎何秒後にゴンドラに乗れるかを求める立式では、無回答率が全国より低い。	下回っている
	努力が必要な問題	●資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する問題において、判断に誤りがある割合と理由が無回答である割合がどちらも高い。	

4. 学校での学習活動, 家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
○学校の授業以外に、普段1日当たりに勉強をする時間は全国に比べて多いが、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合は低い。自主学習の推進等、家庭学習の質の向上を働きかけたい。	
○将来の夢や目標をもっている児童や、人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合が高い。道徳科や子どもつながりプログラムの学習を通して、児童の自尊感情がより一層高まる取組を継続していく。	
○朝食摂取率が年々向上し、ほぼ全国と同程度まで高まってきた。食育の取組をさらに進めて、心身ともに健康な児童の育成に努めていく。自主的に学習する態度の育成とあわせて、家庭との連携を図る。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○1時間の学習の中で、「書く活動」「話し合う活動」を計画的に設定し、一人一人の児童が考えをもち、その考えを深めたり広げたりすることができるように授業改善を図る。また、「振り返り」を重視し、考えの深化や変容を児童自身が自覚できるようにする。
○学力定着サポートシステムの診断問題を通して児童の実態を定期的に把握し、課題点の克服に努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家庭と連携して児童の主体的な学習態度を育成する。
○食育の取組を充実させ、朝食摂取率を高めるとともに、規則正しい生活習慣を身に付けさせていく。
○地域の施設やまちづくり協議会等と連携し、児童の地域行事への参加や地域ぐるみでの教育活動の推進に努める。